

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立義務教育学校八束学園後期課程）

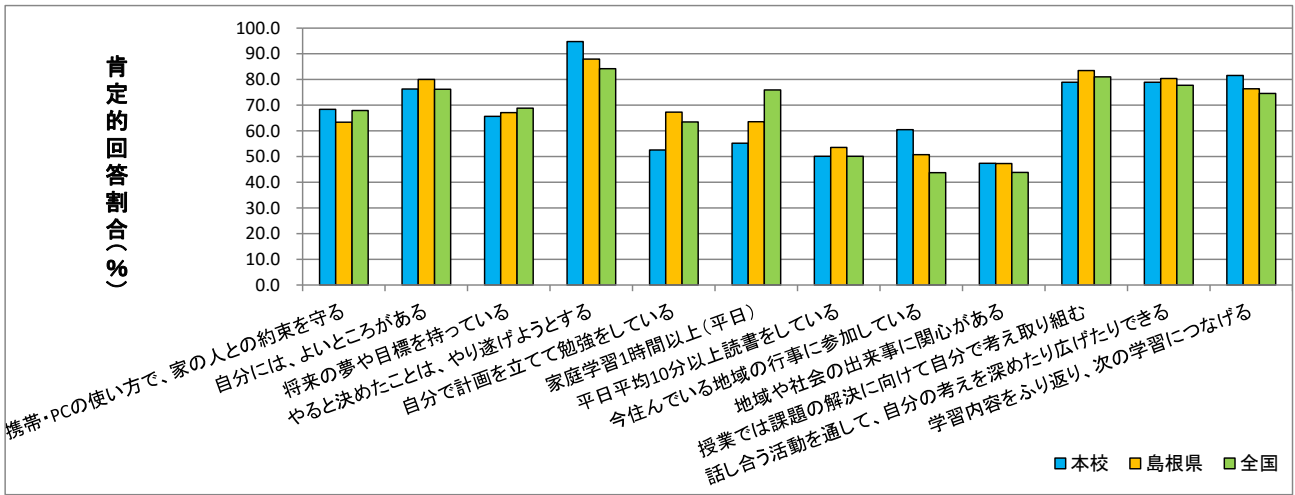
(1) 学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
国語	○漢字や選択問題に一定の成果がみられ、正答率が高かった。 ●記述式の問題で、「自分の考えを表現する」ことが苦手な傾向がみられ、無回答率も高かった。 ●相手や場に応じて、敬語を適切に使うことに課題がみられる。	・書く力を向上するために、200字程度の短作文を書く活動を取り入れたり、課題に対しての自分の考えについて、言葉を選ばせながら書く活動を取り入れる。 ・敬語の種類や性質を形式的に覚えさせるのではなく、言語生活と結び付けて「敬語」の働きや必要性に気づかせ敬語学習への意欲を持たせる活動をする。
数学	○文字式の計算や方程式などの、基本的な計算問題等の正答率が高かった。 ●説明したり証明したりする問題に対しての正答率が低く、無回答率も高かった。	・書く力、説明する力を向上するために、授業の中でグループ活動等を活用し、説明する場面を意図的に作っていく。 ・難しい問題を見たときに、すぐに諦めてしまわないように、普段の授業の中で、ヒント等を出しながら自分で解く経験を増やしていく。

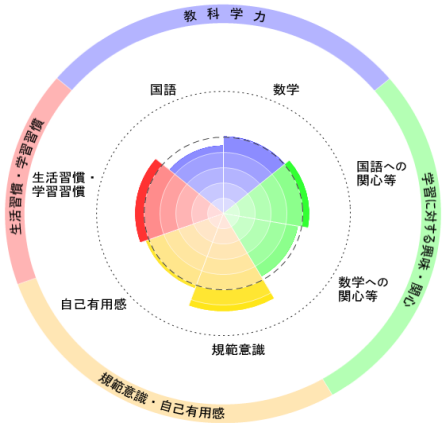
(2) 生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○: 成果, ●: 課題)	対 策
○「やると決めたことを、やり遂げようとする」「地域の行事に参加している」生徒の割合が県平均を上回っている。 ●「平日平均10分以上読書をしている」「自分で計画を立てて勉強する」「平日家庭学習時間1時間以上」ことに肯定的回答をした割合が県平均を下回り、「1日当たりのゲーム時間」が県平均を上回っている。	・授業や朝読書で、読む内容を厳選して提示するなど読む機会を設ける。また、委員会と協力して読書に親しむ取組を行う。 ・義務教育学校の特色を生かし、9年間を通して家庭との連携を図り、「メディア接触時間の減少」、「家庭学習時間の確保」を目指し、家庭への情報発信や本校独自の「チャレンジ週間」の取組を継続していく。

(3) 意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・毎学期の学習コンクール(英数国)の実施、毎日の自主学習を通して基礎学力の定着を図る。
・1日の学習内容を振り返るリポートタイムを終礼時に設け、さらに家庭で復習をすることで基礎学力の定着と家庭学習習慣化を図る。
・メディア使用時間やルールについて保護者と連携し、正しい使い方について学ぶ機会を継続的に設ける。

【受検者数】 39 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。